

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100446		
法人名	株式会社やさしい手甲府		
事業所名	やさしい手グループホームこうふ西		
所在地	山梨県甲府市上石田1-8-23		
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 16 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 5 年 2 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは看取りまで行っていることから、現状が両ユニットを通して重度化が大半を占めている。介護量も増加しており、ご利用者一人にかかる時間も大きい。決して沢山のスタッフが居るわけではなく、限られた人数の中でご利用者の尊厳を保持しながら介護をしている。満足のいくサービスには至っていないが、それに近づけるように努力している。スタッフ全員が看取りまですることを自覚し、それを受け入れて日々のご利用者のケアを行っている。最後に後悔しないように。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業者の理念「ころをつむぐ絆」を、管理者及び職員は常にサービスのあり方について立ち戻り話し合っています。医療連携、重度化対応等、訪問看護を通じての連携、その中で報告や職員の伝え方で一人の利用者の対応が全く違ってしまうので、きちんとした伝達方法を決め、職員間の情報共有を徹底しています。コロナ禍の中、近所付き合いや地域活動、交流ができていない中、今後関わりを持つことを検討されています。サービスの質の向上を図るため又人材の質をどのように担保するか、倫理及びマナー研修、日々の中で一人ひとりが尊厳ある姿を現わされる支援の学びを行っています。誠実に事業所の質を高めようと管理者および職員は、多くの課題を抱えつつも理念の具現化に取り組むよう努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) <b>(※窓越しの面会など距離をとった交流)</b>	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49) <b>(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)</b>	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

事業所名

やさしい手グループホームこうふ西

自 己	外 部	項 目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 1F )	ユニット名( 2F )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「心をつむぐ絆」をモットーにご利用者、ご家族、地域の方々と心を通わせともに創るその人らしい生活を支援できるように新しい職員の入社時に初任者研修を行う。また、毎月のミーティングで理念を共有し、実践できるように指導している。	事業所の理念「心をつむぐ絆」をモットーにご利用者、ご家族、地域の方々と心を通わせともに創るその人らしい生活を支援できるように新しい職員の入社時に初任者研修を行う。また、毎月のミーティングで理念を共有し、実践できるように指導している。	日々のサービス提供場面で、理念を理解して利用者に関わりを持っているか、毎日の朝礼や毎月のミーティングにおいて振り返りを行っている。フロアに理念を掲載し、意識してサービスを提供するよう努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍で地域との交流は出来ていない。	コロナ禍で地域との交流は出来ていない。	コロナ禍前は、文化祭に作品を出展したり、地域の歌声グループが事業所において食事会を開催するなど、関わりを持つ事が出来ていました。現在、コロナ感染防止の中、地域の組長さんが広報誌を事業所に届けて下さっています。今後、利用者が地域の一人として主体的に暮らせられるよう工夫していく計画をされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部との接触が自由に出来ていない為、認知症の理解や支援の方法等伝えることができていない。	外部との接触が自由に出来ていない為、認知症の理解や支援の方法等伝えることができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は書面開催となっており、意見交換も活発には出来ていない。	運営推進会議は書面開催となっており、意見交換も活発には出来ていない。	現在は、書面開催となっていますが、4月からメンバーによる集合開催を計画しています。コロナ感染防止対策や転倒防止について意見が出され、出された意見等は職員に伝え、利用者にとどのように活かしていくか、話し合いを行っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者との協力関係は構築できていない。どのように構築するか検討課題になる。	市町村担当者との協力関係は構築できていない。どのように構築するか検討課題になる。	利用者の生活の様子や事業所として困ったことなど、行政担当者を知ってもらうよう努めています。外部評価の実施後の結果報告を行政担当者と話し合い、情報を共有できるよう取り組もうとしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回身体拘束の研修会を実施。全員が振り返りの時間を持ち、ご利用者の自由を損なわないケアを実践するようにしている。施錠に関しては夜間の玄関のみ施錠を行い、他はどこも施錠することなく自由に往来できるようにしている。	年2回身体拘束の研修会を実施。全員が振り返りの時間を持ち、ご利用者の自由を損なわないケアを実践するようにしている。施錠に関しては夜間の玄関のみ施錠を行い、他はどこも施錠することなく自由に往来できるようにしている。	事業所固有のリスクは、全職員把握に努めています。前かがみになる利用者にクッションを置くかどうかなど、気付きを持つことが出来る研修や事故事例の検討などを実施しています。併せて倫理やマナー研修も実施しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会も年2回以上実施。スタッフとの意見交換を行っている。虐待の意味をしっかりと把握し、自分の行動や言葉に責任を持って業務をする様になっている。職員間でも不適切な言葉や態度が伺えたらお互いに注意できる関係性を作り、見過ごされる事が無い様になっている。	虐待防止の研修会も年2回以上実施。スタッフとの意見交換を行っている。虐待の意味をしっかりと把握し、自分の行動や言葉に責任を持って業務をする様になっている。職員間でも不適切な言葉や態度が伺えたらお互いに注意できる関係性を作り、見過ごされる事が無い様になっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	6・7番の勉強会に関連付けて権利擁護に対する知識を深めミーティングなどで意見交換している。	6・7番の勉強会に関連付けて権利擁護に対する知識を深めミーティングなどで意見交換している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容と並行してわかりやすい言葉でご家族が理解できるように説明している。解約の定義は身近な内容を例えたり、改定時はその都度詳しく内容を説明することで誤解や不安が生じないように行っている。	契約書の内容と並行してわかりやすい言葉でご家族が理解できるように説明している。解約の定義は身近な内容を例えたり、改定時はその都度詳しく内容を説明することで誤解や不安が生じないように行っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

やさしい手グループホームこうふ西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一回満足度調査を行っている。アンケートや忌憚のない意見を頂く事で質の高いケアを実践できるようにしている。アンケート結果をもとにミーティングで内容の周知を行い、意見や要望を受け運営に反映させている。	年に一回満足度調査を行っている。アンケートや忌憚のない意見を頂く事で質の高いケアを実践できるようにしている。アンケート結果をもとにミーティングで内容の周知を行い、意見や要望を受け運営に反映させている。	定期的に満足度アンケートを実施し、殆どの家族等から回答を得ています。出された意見等は、話し合い、これを2ユニットが共有しており、運営に反映するように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、ユニットごとでスタッフミーティングを開催し、その場に出た意見などをみんなで考えより良い運営ができるようにしている。ミーティング前に個々で意見を考えてきてもらっている。	月1回、ユニットごとでスタッフミーティングを開催し、その場に出た意見などをみんなで考えより良い運営ができるようにしている。ミーティング前に個々で意見を考えてきてもらっている。	ミーティングや職員との面談時等において、食事に関する事など、利用者の日々の生活に関わる意見等が出され、これを記録に作成しています。職員からの意見等を取り入れ、運営に反映するよう話し合っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に対する公正な評価シートがあり、それに基づき評価をしている。評価内容も告知しているのでそれに対して努力していれば評価される仕組みとなっている。面談を年に二回実施し、職員の意見や要望を汲み取り、やりがいのある職場環境になるように努めている。	職員に対する公正な評価シートがあり、それに基づき評価をしている。評価内容も告知しているのでそれに対して努力していれば評価される仕組みとなっている。面談を年に二回実施し、職員の意見や要望を汲み取り、やりがいのある職場環境になるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修、中途採用研修、ウエルカム研修などの社内独自で開催している研修に参加、認知症実践者研修などの社外研修などの参加で全社的に職員のスキルアップのための取り組みを行っている。	初任者研修、中途採用研修、ウエルカム研修などの社内独自で開催している研修に参加、認知症実践者研修などの社外研修などの参加で全社的に職員のスキルアップのための取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	初任者研修、中途採用研修、ウエルカム研修などの社内独自で開催している研修に参加、認知症実践者研修などの社外研修などの参加で全社的に職員のスキルアップのための取り組みを行っている。	初任者研修、中途採用研修、ウエルカム研修などの社内独自で開催している研修に参加、認知症実践者研修などの社外研修などの参加で全社的に職員のスキルアップのための取り組みを行っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前には面談などを行い、少しずつ信頼関係を作る。情報の収集をしてご利用者が安心してサービスを使えるような状態を作る。ご家族やケアマネからのアセスメントをしっかりと行い、より良い関係性を構築している。	サービス導入前には面談などを行い、少しずつ信頼関係を作る。情報の収集をしてご利用者が安心してサービスを使えるような状態を作る。ご家族やケアマネからのアセスメントをしっかりと行い、より良い関係性を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学等の段階からご家族の要望や不安材料を聞き取り、ご家族の気持ちをしっかりと受け止めることから始める。ご家族の話は共感しながら傾聴する。色々なご家族がおられるので信頼関係の作り方もご家族に合わせて築いていく。	見学等の段階からご家族の要望や不安材料を聞き取り、ご家族の気持ちをしっかりと受け止めることから始める。ご家族の話は共感しながら傾聴する。色々なご家族がおられるので信頼関係の作り方もご家族に合わせて築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずご利用者、ご家族の現状を把握し、いま必要な支援は何か話し合う。ケアマネも含めて対応していく。同敷地内にはデイサービス、小規模多機能、訪問介護など多様なサービスが存在しているためサービスを紹介する時もある。	まずご利用者、ご家族の現状を把握し、いま必要な支援は何か話し合う。ケアマネも含めて対応していく。同敷地内にはデイサービス、小規模多機能、訪問介護など多様なサービスが存在しているためサービスを紹介する時もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者の状態を踏まえ、生活を共にする者同士と捉え、お互いに支えあえる間柄となる事が必要である。馴染みとなった職員とご利用者が喜び、悲しみなどを共感でき、支えたり、ご利用者に教えてもらったりする関係性を築いている。	職員はご利用者の状態を踏まえ、生活を共にする者同士と捉え、お互いに支えあえる間柄となる事が必要である。馴染みとなった職員とご利用者が喜び、悲しみなどを共感でき、支えたり、ご利用者に教えてもらったりする関係性を築いている。		



自己評価および外部評価結果

事業所名

やさしい手グループホームこうふ西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 1F )	ユニット名( 2F )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には必要時の連絡と毎月1回のご利用者の状況報告を電話で行っている。ご家族と常に情報を共有しながら支援してもらえる時は気軽に依頼できる関係を作り、ご家族とともにご利用者を支えることができる環境を整えている。	ご家族には必要時の連絡と毎月1回のご利用者の状況報告を電話で行っている。ご家族と常に情報を共有しながら支援してもらえる時は気軽に依頼できる関係を作り、ご家族とともにご利用者を支えることができる環境を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中でもご家族はご利用者の顔を見て安心したい気持ちが強いので、できる限り安心できる環境を作っている。電話での声を聞いたり、会話したり、直接の面会はできないが、ガラス越しの面会で表情を確認したりして関係の継続を支援している。	コロナ禍の中でもご家族はご利用者の顔を見て安心したい気持ちが強いので、できる限り安心できる環境を作っている。電話での声を聞いたり、会話したり、直接の面会はできないが、ガラス越しの面会で表情を確認したりして関係の継続を支援している。	コロナ禍の中で、出来る事の継続の支援は行っています。行きつけの美容院や墓参り、行きつけの美味しいなご屋さんと家族と一緒に食事など、そろそろ復活する予定をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の情報をもとに良好な関係を築ける方々を考え楽しく過ごせる環境を作る。難聴であったり、認知症であるがゆえに関りがうまく取れない方には職員が間に入り出来るだけ他者との関わりが出来て、他者と触れ合える時間を提供できるように努めている。	ご利用者の情報をもとに良好な関係を築ける方々を考え楽しく過ごせる環境を作る。難聴であったり、認知症であるがゆえに関りがうまく取れない方には職員が間に入り出来るだけ他者との関わりが出来て、他者と触れ合える時間を提供できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられたご家族にはグリーフケアを行っている。他施設に入居されたり、入院して戻られなくなった方のご家族もせつかくの縁だからと言って顔を出してくれたり、身内やご家族を紹介して頂いたりして今もグループホームと繋がっている方もいる。	亡くなられたご家族にはグリーフケアを行っている。他施設に入居されたり、入院して戻られなくなった方のご家族もせつかくの縁だからと言って顔を出してくれたり、身内やご家族を紹介して頂いたりして今もグループホームと繋がっている方もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニット固定のスタッフが馴染みの顔となり、一緒に生活する中で表情や様子、言動の中からご利用者の思いを汲み取り把握する事に努めている。また、ご家族から話を聞き、生活歴などを収集することでそれを参考として思いや意向を把握するようにしている。	ユニット固定のスタッフが馴染みの顔となり、一緒に生活する中で表情や様子、言動の中からご利用者の思いを汲み取り把握する事に努めている。また、ご家族から話を聞き、生活歴などを収集することでそれを参考として思いや意向を把握するようにしている。	利用者との日々の関わりの中で、ポツリと希望等が出されます。コミュニケーションの取りにくい利用者には、1日の流れの中でどんな時に嬉しい表情をするか、何があつて不機嫌になっているのかなど、記録にして、こうして欲しいという気持ちをくみ取るよう、職員間で検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インタビューでご本人、ご家族ケアマネなどからこれまでのヒストリーをやや情報を聞き取りアセスメントしている。またサービス開始後もご本人との会話のやり取りの中で本人の思いを聞き出し、把握に努めている。	インタビューでご本人、ご家族ケアマネなどからこれまでのヒストリーをやや情報を聞き取りアセスメントしている。またサービス開始後もご本人との会話のやり取りの中で本人の思いを聞き出し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の情報共有に力を入れている。申し送りノートやその日の気づきノート、朝礼などでコミュニケーションを取り一早く変化などに気付けるように職員全員が認識し、支援している。	職員間の情報共有に力を入れている。申し送りノートやその日の気づきノート、朝礼などでコミュニケーションを取り一早く変化などに気付けるように職員全員が認識し、支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティング内でカンファレンスを開きご利用者の現状の課題などを検討し意見を抽出し、介護計画の見直しを行っている。日々変化のご利用者差の状態を職員が把握しケアをしている。またケアマネ主催で担当者会議を開催し、ご家族等の意見を反映している。	毎月のミーティング内でカンファレンスを開きご利用者の現状の課題などを検討し意見を抽出し、介護計画の見直しを行っている。日々変化のご利用者差の状態を職員が把握しケアをしている。またケアマネ主催で担当者会議を開催し、ご家族等の意見を反映している。	毎日のモニタリングを重視し、本人や家族等の思いや意見を聞き、職員全員で利用者の日々の暮らしについて意見交換し、利用者主体の暮らしを反映した計画となっています。変化があるとモニタリングを行い、現状に即した計画となっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケア記録の作成。ミーティングでのカンファレンスの実施。職員間での気づきは朝礼などで話し合い、連絡ノートなどに落とし込み情報共有している。これらを鑑みケアプランに反映させている。	毎日のケア記録の作成。ミーティングでのカンファレンスの実施。職員間での気づきは朝礼などで話し合い、連絡ノートなどに落とし込み情報共有している。これらを鑑みケアプランに反映させている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

やさしい手グループホームこうふ西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームだけに捉われることなく本人のニーズに一番合ったサービスが提供できるように検討しアドバースしている。	グループホームだけに捉われることなく本人のニーズに一番合ったサービスが提供できるように検討しアドバースしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの関係で地域資源との共働が図られていない。	コロナの関係で地域資源との共働が図られていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にご本人、ご家族の意向を確認し、かかりつけ医を決めている。定期的な受診はご家族に支援を依頼し、急な受診などは職員が臨機応変に対応している。また遠方のご家族に対してはできる限りの支援を職員がしている。	契約時にご本人、ご家族の意向を確認し、かかりつけ医を決めている。定期的な受診はご家族に支援を依頼し、急な受診などは職員が臨機応変に対応している。また遠方のご家族に対してはできる限りの支援を職員がしている。	今迄のかかりつけ医や希望の病院などは、契約時に確認しています。受診は家族対応となっており、職員も対応しており、受診後の情報交換は、電話等で行っています。月2回の訪問診療、訪問歯科等それぞれのかかりつけ医と、関係を築いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時に、ご利用者の相談をしたり、随時電話連絡などで情報を報告し、連携に努めている。日々の細かい情報を伝達することでお互いにご利用者の心身の状態を把握でき、適切な看護や受診がスムーズにできている。	週1回の訪問看護時に、ご利用者の相談をしたり、随時電話連絡などで情報を報告し、連携に努めている。日々の細かい情報を伝達することでお互いにご利用者の心身の状態を把握でき、適切な看護や受診がスムーズにできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医療関係者とご家族の間に入り詳細な情報を伝えている。また必要時は主治医からの紹介状を出してもらい病院関係者との情報交換もできている。退院時は職員もカンファレンスに出席し安心して退院ができ、グループホームに戻れるよう努めている。	入院時は医療関係者とご家族の間に入り詳細な情報を伝えている。また必要時は主治医からの紹介状を出してもらい病院関係者との情報交換もできている。退院時は職員もカンファレンスに出席し安心して退院ができ、グループホームに戻れるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の指針をご家族に説明、同意を頂く。また、緊急時や看取りとなった際の方向性をご家族と話し合い双方の擦り合わせができるようにしている。	契約時に重度化した場合の指針をご家族に説明、同意を頂く。また、緊急時や看取りとなった際の方向性をご家族と話し合い双方の擦り合わせができるようにしている。	事業所として出来る事は説明し、医療関係者との話し合いや連携を図っています。職員は、本人や家族等の安心感を大切に、馴染みの関係の中で看取することを家族や医療関係者間で、繰り返し話し合いに取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成しており、職員は緊急時の初期対応ができるよう勉強会などで指導している。救命救急の研修にも参加して実践につながるようにしている。	緊急時のマニュアルを作成しており、職員は緊急時の初期対応ができるよう勉強会などで指導している。救命救急の研修にも参加して実践につながるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震対策マニュアル、水害対策マニュアルとうが整備されており随時、研修もしている。防災訓練も夜間想定などの訓練を年2回以上実施。	地震対策マニュアル、水害対策マニュアルとうが整備されており随時、研修もしている。防災訓練も夜間想定などの訓練を年2回以上実施。	災害に関するマニュアルを作成し消防署等の協力を得て、想定外を想定内にするよう利用者と一緒に訓練を行っています。訓練実施後は課題を明確にし、次に活かすよう努めています。災害に備え備品等の準備もされています。	更に、日頃から、家族等や地域住民、運営推進会議との話し合いを行い、一緒に訓練を行うなど連携を図りながら、協力体制を築いていく事を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新しい職員には初任者研修を実施しており、尊厳とプライバシーの大切さを伝えている。年に2回以上倫理マナー県有を開催し、再確認し、振り返りと反省を行うことで意識の向上を図っている。	新しい職員には初任者研修を実施しており、尊厳とプライバシーの大切さを伝えている。年に2回以上倫理マナー県有を開催し、再確認し、振り返りと反省を行うことで意識の向上を図っている。	「トイレに行きたい」「さっき行ったから待って」など本人を傷つけていないかなど、日々振り返りを行いながら、誇りやプライバシーを損ねる事のないよう確認し合っています。利用者の出来る事に光を当て、支援するよう取り組んでいます。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

やさしい手グループホームこうふ西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 1F )	ユニット名( 2F )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるかぎり、日常生活の中でご本人の思いや希望が楽に表すことができる会話をスタッフができるように指導している。ご利用者の表情や言動に注視し本人が決定できるように支援している。	できるかぎり、日常生活の中でご本人の思いや希望が楽に表すことができる会話をスタッフができるように指導している。ご利用者の表情や言動に注視し本人が決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	職員はご利用者個々のペースを把握すること。ご本人の生活リズムを知ること。それを崩さない支援をするようにしている。職員の心のゆとりが大切なのでゆとりを持ったケアをすることでご利用者本位の暮らしができるよう心掛けている。	職員はご利用者個々のペースを把握すること。ご本人の生活リズムを知ること。それを崩さない支援をするようにしている。職員の心のゆとりが大切なのでゆとりを持ったケアをすることでご利用者本位の暮らしができるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の今までの生活習慣を知ったうえでその人らしい身だしなみをしてもらえるよう支援している。できる方は本人の意思に任せて行ってもらう。	ご本人の今までの生活習慣を知ったうえでその人らしい身だしなみをしてもらえるよう支援している。できる方は本人の意思に任せて行ってもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の嗜好を知る。親しい方との席を準備し和やかに食べてもらえる空間を作る。行事の時は季節に合わせて行事食などを提供し、楽しんで食べてもらう。できる方には後片付けなどのお手伝いをしてもらっている。	本人の嗜好を知る。親しい方との席を準備し和やかに食べてもらえる空間を作る。行事の時は季節に合わせて行事食などを提供し、楽しんで食べてもらう。できる方には後片付けなどのお手伝いをしてもらっている。	郷土食のほうとうや行事食など手作りランチを楽しんでいます。重度の利用者には、きざみ、ムースなど食べられる形状にして、食事を楽しんでもらえるよう配慮されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がメニューや栄養バランスを考えている。水分は色々な味を楽しめるよう工夫し、必要な水分摂取が摂れるようにしている。	管理栄養士がメニューや栄養バランスを考えている。水分は色々な味を楽しめるよう工夫し、必要な水分摂取が摂れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。週1回訪問歯科が入っており、治療はケアの必要な方は診てもらっている。歯科医からもアドバイスを常に頂き、ご利用者の口腔内の清潔保持に努めている。	毎食後の口腔ケアの実施。週1回訪問歯科が入っており、治療はケアの必要な方は診てもらっている。歯科医からもアドバイスを常に頂き、ご利用者の口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排尿、排便の記録をし、排泄の状態確認を行っている。それぞれの能力に応じた排泄支援を行い、席るだけトイレでの排泄ができるよう支援している。立位が困難な方でも2人介助で行いトイレでの排泄が全員出来ている。	排泄チェック表にて排尿、排便の記録をし、排泄の状態確認を行っている。それぞれの能力に応じた排泄支援を行い、席るだけトイレでの排泄ができるよう支援している。立位が困難な方でも2人介助で行いトイレでの排泄が全員出来ている。	トイレでの排泄を可能にするため、回数の多い利用者、コントロールが困難な利用者等、排泄チェック表を活用し、一人ひとりについて常に見直しを行い、行きたい時にトイレに行く支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取と活動の増加に努めている。訪問看護と連携を取っており、内服薬などで調整しながら便秘の予防策を講じている。	水分摂取と活動の増加に努めている。訪問看護と連携を取っており、内服薬などで調整しながら便秘の予防策を講じている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は指定しておらずご本人の状態と意向を確認しながら入浴されている。入浴への拒みが強い方もいるため誘導時にはスタッフの顔を変えたり、声掛けのタイミングや時間を変えたりして入浴を支援している。	曜日は指定しておらずご本人の状態と意向を確認しながら入浴されている。入浴への拒みが強い方もいるため誘導時にはスタッフの顔を変えたり、声掛けのタイミングや時間を変えたりして入浴を支援している。	しょうぶ湯やゆず湯、入浴剤など、季節に応じた入浴を楽しんでいます。車いす対応の利用者がほとんどであり、様々なリスクを考慮して、安全に入浴が出来るよう全職員努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意向や状態を見ながら休息を促している。居室の環境を整え夏季や冬季の居室の温度調節を行い、寝具類も調節しながら安眠できるように支援している。	ご本人の意向や状態を見ながら休息を促している。居室の環境を整え夏季や冬季の居室の温度調節を行い、寝具類も調節しながら安眠できるように支援している。		



自己評価および外部評価結果

事業所名

やさしい手グループホームこうふ西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 1F )	ユニット名( 2F )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを職員は見ている服薬状況を把握し、知識を持ち理解するようにしている。内服薬が変更した時は朝礼で伝達、また訪問診療情報に詳細があるため確認する。誤薬事故が起きないように、薬袋の氏名、日付、食前か食後か声出して確認している。	処方箋ファイルを職員は見ている服薬状況を把握し、知識を持ち理解するようにしている。内服薬が変更した時は朝礼で伝達、また訪問診療情報に詳細があるため確認する。誤薬事故が起きないように、薬袋の氏名、日付、食前か食後か声出して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	徐々にできないことが多くなりそのことに対する不安や意欲低下が現れる方もいる。今の能力に見合った物が何か職員は観察し、負担なく楽しんで役割ができるように支援している。	徐々にできないことが多くなりそのことに対する不安や意欲低下が現れる方もいる。今の能力に見合った物が何か職員は観察し、負担なく楽しんで役割ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍であるため、希望に沿った外出はできないが、必要最低限の敷地内の散歩などを心掛けている。早く日常的に外出ができることを願います。	コロナ禍であるため、希望に沿った外出はできないが、必要最低限の敷地内の散歩などを心掛けている。早く日常的に外出ができることを願います。	コロナ禍の前は、家族やボランティアの協力を得て、お花見や洋服などの買い物に出かけていました。現在は、車椅子の利用者と共に、フロアから見える富士山を眺めたり、敷地内の散歩を楽しんでいます。その人らしく暮らしているために、日常的に外出が出来る方法を検討しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金として現金を預かり保管、運用している。お金を所持していることで落ち着く方もいるためご家族と相談の上現金を持たれている方もいます。機会があれば自分で買い物して自分で支払うことができる支援もしていました。	預り金として現金を預かり保管、運用している。お金を所持していることで落ち着く方もいるためご家族と相談の上現金を持たれている方もいます。機会があれば自分で買い物して自分で支払うことができる支援もしていました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙のやり取りなど自由で規制はないです。また、今は携帯電話を所持している方も多く見守りながら自由に使っています。	希望があれば電話や手紙のやり取りなど自由で規制はないです。また、今は携帯電話を所持している方も多く見守りながら自由に使っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はいつも居心地よくいてもらうために適宜状況に合わせて、レイアウトの変更をしている。急激に変更するとご利用者の気持ちを乱してしまうこともあるため徐々に変更するようにしている。	共有空間はいつも居心地よくいてもらうために適宜状況に合わせて、レイアウトの変更をしている。急激に変更するとご利用者の気持ちを乱してしまうこともあるため徐々に変更するようにしている。	フロアは、利用者の作品や四季に応じた飾りつけがあり、家庭的な雰囲気です。ソファで気の合った利用者同士が、ゆっくりお昼寝ができる場所もあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の意向や職員サイドからの観察で居心地よい居場所を見つけられるように支援している。この場所がいいというより最初からいる場所を好まれる方が多く、あまり動きはないが居心地の良い場所で思い思いに過ごされている。	ご利用者の意向や職員サイドからの観察で居心地よい居場所を見つけられるように支援している。この場所がいいというより最初からいる場所を好まれる方が多く、あまり動きはないが居心地の良い場所で思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時にご本人やご家族に入所されるときは愛着のある家具や物などを持参して頂き落ち着ける居場所を作ってもらっている。それぞれのご家族の思いが詰まった居室の空間に仕上げられている。	契約時にご本人やご家族に入所されるときは愛着のある家具や物などを持参して頂き落ち着ける居場所を作ってもらっている。それぞれのご家族の思いが詰まった居室の空間に仕上げられている。	居室は、仏壇や家族の写真、好みのカレンダー、テレビの見た目はテレビが置かれ、居心地の良さに配慮されています。居室の窓からは、普段の風景が眺められ温かい雰囲気のお部屋となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症の進行とともに今までわかっていたトイレや居室がわからなくなる。本人の不安を解消する声掛けや各居室に名前を表示、トイレを示す表示などをしてできるだけ自立した生活が営めるように工夫している。	認知症の進行とともに今までわかっていたトイレや居室がわからなくなる。本人の不安を解消する声掛けや各居室に名前を表示、トイレを示す表示などをしてできるだけ自立した生活が営めるように工夫している。		